

藤枝市長 北村正平 様

令和4年度の予算編成に向けて

提 言 書

藤 枝 市 議 会

はじめに

藤枝市は、今まで、「元気共奏・飛躍ふじえだ～元気つながる、笑顔ひろがる。～」を基本理念に掲げる「第5次藤枝市総合計画」及び「ふじえだ健康都市創生総合戦略」に基づき、「元気なまち」そして「選ばれるまち」の実現に向け、様々なまちづくり施策を推進してきました。

少子高齢・人口減少社会が進展する中で、「4K施策」やICTの活用などにより、高齢者や女性を含めた誰もが活躍できるまちづくりの実現に向け、本市独自の施策を推進してきたことは、大いに評価するところであります。

そして、今年度は、10年後の市の目指す姿として、「“幸せになるまち” 藤枝づくり～まち・自然・文化と共生 未来へ飛躍～」を基本理念に掲げた、「第6次藤枝市総合計画」がスタートしました。

新型コロナウイルス感染症が世界全体で猛威を振るい、いまだ収束の兆しの見えない先行き不透明な状況の中、少子高齢化に伴う社会保障費の増加や、人口減少に伴う人手不足への懸念など多くの課題を抱え地方行財政を取り巻く環境は、さらに厳しい状況が続くと思われまます。

大きく変革する社会の中でも、「選ばれるまち」であり続け、全ての市民が「幸せ」になるために、限りある財源の効果的な活用により、さらなる施策の推進を求めるものであります。

つきましては、所管事務及び重点戦略事業等の調査を実施するなかで、協議・検討を行い、今後の施策推進の一端に資することを願い、各常任委員会からの「提言」といたします。

令和3年10月19日

藤 枝 市 議 会

【総務文教委員会】

1. 観光施策について

新型コロナウイルス感染症の収束後、藤枝市の魅力を今一度精査する中で、日本遺産等を活用した観光施策に重点的に取り組み、観光交流や観光人口の拡大に努められたい。

2. デジタル行政について

現在策定中の「藤枝市DX推進ビジョン」に基づく、新たな具体的施策については、デジタル庁の掲げる「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」に沿ったものとなるよう努められたい。

また、デジタル化の推進による庁内の働き方改革の更なる取り組みについて、早期に具体的施策が実行できるよう、関係部署横断で努められたい。

3. 小中学校のICT支援員の増員について

現在7名体制となっているICT支援員について、子どもたちのより一層の情報活用能力の向上、また教員の多忙化の解消及び業務効率化の観点から増員するよう努められたい。

【健康福祉委員会】

1. 新型コロナウイルスへの対応について

新型コロナウイルスへの対応として、市民が安心できるような診療、治療体制の確立を求めるとともに、コロナウイルスに対する正しい情報を引き続き発信するなど、感染防止につながる情報提供に努められたい。

また、保険診療の対象とならない自費診療のPCR検査費用については高額な負担となることから、PCR検査費用に対する補助制度の創設を求める。

2. 予防医療と健康増進への取組について

- (1) 新型コロナウイルス感染症が特定健診等の受診者数を減少させることとなった。感染症収束を見据えながら、疾病の早期発見・早期治療に向けた特定健診をはじめとした各種検診の推進にあたり、より早く通常ペースの受診者数確保に努められたい。
- (2) 企業が自発的に健康経営宣言を行うなど、そこで働く人の心身の健康と幸福度向上を意図した具体的な取り組みを通してSDGs(「すべての人に健康と福祉を」など)を積極的に推進する企業をはじめ、健康経営における優れた取り組みや持続可能な社会の実現に向けて取り組む事業者への更なる支援を求める。
- (3) 生活習慣病予防や介護予防など、予防医療・健康増進に関する市民の知識を充実させるための周知活動により注力されたい。

3. 高齢者・介護支援の充実について

今後急速に進む高齢社会への対応として、ひとり暮らしの高齢者、高齢者夫婦、老老介護、8050問題など、社会的に孤立化しやすい状況にある方の孤立を防ぐため、孤立の予兆の初期発見が可能な体制の構築並びに、より手厚い介護の体制等の整備に向け、安心すこやかセンターの体制強化と支援の充実を求める。

【建設経済環境委員会】

1. ウィズコロナ・アフターコロナの地域経済対策について

- (1) 本市が独自政策として、事業者を支援してきたことを評価し、引き続き幅広く事業者の救済、地域経済支援に全力を尽くされたい。
- (2) 「地域循環型経済」を前に進めるために、地域通貨の検討・研究に取り組みたい。

2. 中山間地域の移住定住対策について

- (1) 本件の所管がスポーツ文化観光部に移行したことは、再検討が必要である。近況では、中山間地域の人口減少は深刻であり、産業振興部、都市建設部、企画創生部にまたがる施策を一元化して専門的に推進する部署を検討されたい。
- (2) 安価に宅地が供給されれば、中山間地域の人口増が実現できることは朝比奈地域・岡部町殿(工場跡地、8戸)で証明されている。優良田園住宅建設や既存宅地(空き家)、また工場跡地利用などに積極的に取り組みたい。
- (3) 山間部の建築規制のない地域を増やすために、市街化調整区域の北限を下げる線引きの見直しを検討されたい。(瀬戸谷地区では北限のすぐ外に3戸増えた実績より)

3. 市内の交通渋滞解消のために

- (1) 田沼街道の深刻な渋滞解消のために、特段の手立てを講じられたい。なかでも小川島田幹線1.1キロ区間の整備を急ぐこと。
- (2) 遅れている志太中央幹線の延長(西益津地内)を、県に強く要請されたい。
- (3) 藤枝バイパス4車線化が実現しても現在の渋滞は完全には解消できないと考えられることから、県道静岡藤枝島田線に並行した幹線道路の延長(下当間から西へ)を検討すること。

4. 気候変動による豪雨、頻発する土砂災害への備えについて

- (1) 危機管理センターと共同して、わかりやすい避難の方法について、日ごろから住民とよく話し合う仕組みをつくること。
- (2) 堤防決壊、盛り土の崩壊やがけ崩れ、液状化被害などの危険個所の点検と対策を検討して災害に強いまちづくりをすすめること。